

経済振興委員会報告資料

半導体関連産業振興の取組みの
方向性について

令和 7 年 12 月
経済観光文化局

半導体関連産業振興の取組みの方向性について

1 半導体関連産業の状況

<世界市場の動向>

- 半導体は、スマートフォンや自動車、通信基地など、あらゆる電子機器やインフラを動かす必需品であり、あらゆる産業や社会経済を支えるもの。今後、世界の市場規模は、2020年の約50兆円から2030年に約100兆円規模に拡大すると予測されている。
- 半導体製造は、設計から製造、販売まで一社で行う「垂直統合型」に対して、製造工程ごとに専門知識をもった企業が分業する「水平分業型」が主流になっている。

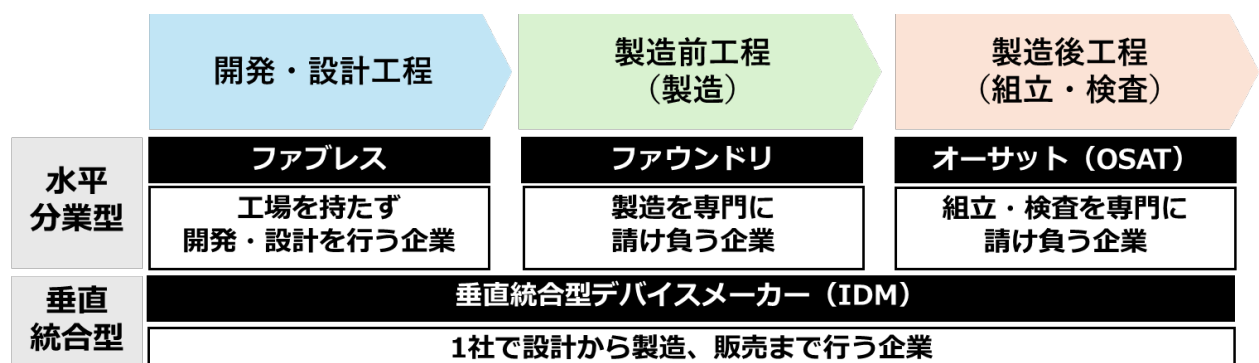
<国・県>

- 国は、デジタル社会を支える戦略的技術である半導体について、経済安全保障への対応、デジタル改革や低消費電力化の推進を図るため、半導体産業基盤の強靱化に向けた国内外一体の対策を推進しており、先端半導体分野への助成や高度設計人材育成を支援。
- 福岡県では、半導体人材育成強化のため、2023年に「福岡半導体リスキリングセンター」を開設。2025年には、「三次元半導体研究センター」と「社会システム実装センター」を再編し、製造後工程の技術開発を支援する「福岡超集積半導体ソリューションセンター」を開所。

<市>

- 市内の半導体関連企業は、約100社。うち、開発・設計企業は約30社。

【参考】 半導体製造工程の概要



2 これまでの取り組み

これまで、半導体関連産業の振興について、国の「九州半導体人材育成等コンソーシアム」などの関係団体への参画や半導体関連企業の誘致などを行ってきた。

半導体関連産業の振興は、高度な人材の集積や高付加価値なビジネスを生み出すとともに、情報関連産業の成長にもつながり、都市の成長にも資することから、今後、さらに積極的な取り組みを進めていく。

3 今後の取り組みの方向性

先端半導体の開発・設計を行うファブレスを軸とした半導体関連企業の集積を進める。

- 自社の製品やサービスに最適化された独自の半導体を採用する企業の増加に伴い、半導体設計の重要性が増しており、今後の設計分野の成長が期待されている。
- ファブレス企業の集積は、地場の半導体関連企業に対しても、新たなビジネス機会や技術連携の場を提供し、競争力強化に寄与できる。
- ファブレスは、工場を持たず、広大な用地や大量の水を必要としないため、福岡市に適した業態である。

<取組内容>

半導体関連企業やエンジニアが集まることで、企業間の連携や人材の交流が生まれ、新しい半導体やそれを活用した新しいサービス・製品が創出される環境の構築を目指し、以下の取組みの検討を行う。

- 半導体関連企業の集積に向けた取組み
 - ・福岡市へ進出する企業等の円滑な立地に向けた官民のネットワークの構築を検討する。
 - ・立地交付金制度改正について検討する。
- 企業・人材の交流の促進
 - ・半導体を活用した新しいサービスや製品のアイデア創出、企業間の連携を促進するため、分野や職種を越えて交流できる仕組みやイベント開催などを検討する。